

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2773500380
法人名	有限会社ケアプラザ
事業所名	ケア・プラザなずなの里
所在地	大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分482-7 (電話) 0721-72-7082

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん		
所在地	大阪府岸和田市三田町1797		
訪問調査日	平成21年5月25日	評価確定日	平成21年6月15日

【情報提供票より】 (21年5月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.85人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000～60,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	800 円
	夕食	800 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成21年5月25日現在)

利用者人数	7名	男性	2名	女性	5名	
要介護1		要介護2		3名		
要介護3		要介護4		1名		
要介護5	3名	要支援2				
年齢	平均	79.4歳	最低	66歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新田クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ケア・プラザなずなの里」は近鉄南大阪線富田林駅から金剛バス北水分停留所下車徒歩約3分のところにあり、田畑や川に囲まれた自然が溢れる中にある。建物は木造2階建ての民家を使用しており、家庭的な生活空間となっている。職員は利用者に寄り添い見守るケアを基本としながら、利用者一人ひとりのペースに合わせ、楽しみごとやコミュニケーションを大切にして利用者ができることを活かしていく生活支援を行っている。散歩や買い物等の外出は日常的に行っている。利用者のケアについて職員同士のチームワークも良く、医療機関や役場・消防署等との連携にもしっかりと取り組んでいる。またターミナルケアも行っており、これまでも看取った経験がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題として、会議の開催頻度を増やし活用すること、年間研修計画の作成、介護計画を利用者・家族等と共に作成することなどが指摘されている。研修計画については改善された。その他の課題については、改善されているが十分とは言えず、さらに検討することが望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価の意義を職員全員が周知しており、自己評価は管理者と介護支援専門員が作成し職員全員の意見を聴取している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民、地域包括支援センター職員などが参加して開催し、事業所の運営等の報告や利用者の緊急時の協力を要請している。会議の開催はまだ年2回程度であり開催頻度の改善が望まれ、参加者の輪をもう少し広げていくことで、参加者からの意見を運営に反映させていく工夫なども期待される。千早赤阪村全域に事業所を活用していただくために介護相談等のPRチラシを配布し、玄関前にも掲示している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の来訪時には、その都度利用者の暮らしぶりなどを報告している。そしてそれらのやりとりをノートに記録している。季節毎に「なずな通信」を発行し、行事報告や利用者の様子を伝えている。家族等からの意見や苦情は少ない。今後は些細な意見でも出していただくための工夫、例えばアンケートの実施や介護計画への意見を聴取するための手紙等を送付するなどの取り組みが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りや水分神社の盆踊りには利用者が参加したり、子ども会の廃品回収や自治会の清掃に協力するなどしている。また近隣の住民から収穫した野菜を譲り受けたり、日頃から地元の方々との交流が見られる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「付き添い・寄り添い見守るケア、出来ないことはお手伝いし出来ることを見出すケア、言葉使いは尊敬と意をこめて、やさしくゆっくり、好みの献立を温かい物は温かく冷たい物は冷たく、散歩、買物の励行」を理念として掲げている。今年の介護方針は「ころばぬ先の杖」としている。今後は理念や方針をもとに地域密着サービス事業所としての事業計画を作成していくことが期待される。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には理念を説明し、理解してもらうようにしている。また理念を食堂に掲示しており、朝礼時に唱和している。玄関にも「転ばぬ先の杖」と介護方針を大きく掲示し、職場での理念の共有に繋げる取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや水分神社の盆踊りには利用者が参加したり、子ども会の廃品回収や自治会の清掃に協力するなどしている。また近隣の住民から収穫した野菜を譲り受けたり、日頃から地元の方々との交流が見られる。今後はボランティアの活用なども検討していくことが望まれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を職員全員が周知しており、自己評価の作成には管理者と介護支援専門員が作成し職員全員の意見を聴取している。外部評価で指摘された課題は会議で検討し、その改善に向けて真摯に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民、地域包括支援センター職員などが参加して開催し、事業所の運営等の報告や利用者の緊急時の協力を依頼している。運営推進会議を地域とのパイプ役としてとらえ、2~3か月に一度の開催が望まれる。	○	開催頻度を増し、参加者の輪をもう少し広げていくことで、参加者からの意見を運営に反映させていく工夫が期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村役場の担当者とは顔馴染みの関係にあり、新型インフルエンザ対策や書類提出時など機会を捉え相談するなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の来訪時には、その都度利用者の暮らしぶりなどを報告している。そしてその時のやりとりをノートに記録している。季節毎に「なずな通信」を発行し、行事報告や利用者の様子を伝えている。金銭出納帳の残高を来訪された家族には確認してもらっているが、長期間来訪のない家族等には郵送するなどして確認いただくことが望まれる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に苦情相談窓口や担当者の説明など行っている。家族等からの意見や苦情は少ない。今後は些細な意見でも気軽に出していただくための工夫、例えばアンケートの実施や介護計画への意見を聴取するための手紙等を送付するなどの取り組みが期待される。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを防ぐために職員の異動を出来る限り少なくしており、同じ職員で利用者への対応を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度から研修計画書を作成し、職員が計画的に研修を受講できるように取り組んでいる。内部研修は職員からの希望等によってテーマを設定し、全体ミーティングを利用して2～3ヶ月に1回開催している。外部研修は事業者連絡会が開催する研修等を受講している。今年度の取り組み結果を検証して、また来年以降へ繋げていくことが期待される。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域内にはグループホームが他に1か所であることから、南河内郡の事業者連絡会「縄なわネット」に参加し、研修会への参加や祭りのブースへの参加などを通じて職員の交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には職員や他の利用者と顔馴染みの関係ができるまで、体験入所や見学などの機会を設けている。さらに、入居前には随時相談を受けたり、食事や趣味などの要望を聞く取り組みもしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、調理の味付けや清掃などの家事、服の繕いなど入居者が得意な分野で力を発揮できる機会を作ったり、造船業に勤めていた利用者から仕事の話しを聴いたり、共に分かち合う関係づくりに心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活背景などを基本情報に記録し、一人ひとりの生活習慣や思いを把握することに努めている。レクリエーション、歌、カラオケなど利用者の希望や意向を生活の中で生かしている。意思疎通が困難な利用者に対しても、根気よく利用者の思いを把握できるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は月1回ケアカンファレンスを開催し、必要な支援を盛り込んだ個別具体的な介護計画を作成しているが、この会議に家族などの関係者の参加がない。	○	高齢であったり、交通の便などの理由でグループホームを来訪される家族等が少ない。しかしカンファレンスへの参加を呼びかけることや来訪が難しい家族等にも手紙などで意見等を聴取する機会を持ち、常に相談しながら作成しているという姿勢を示すことが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に一度、介護計画の見直しや再アセスメントを実施している。状態に変化がみられたときにも検討し、随時作成している。面会の少ない利用者のために、月1回程度電話を架けて家族の意向を確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は職員が支援している。地域住民が気軽に立ち寄っていただけるようにと、認知症相談や地域の独居高齢者・閉じこもり高齢者に事業所を開放しているなどを記載したパンフレットを配布・掲示している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援は可能であるが現在のところ希望者はおられない。協力医療機関の医師が月2回往診、看護師は毎週金曜日に来所しているが、それ以外の日でも電話1本で往診している。歯科衛生士は毎週月曜日往診している。利用者の状況は「状況変化のノート」に記録し、情報を職員が共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応方針等はマニュアル化して、利用者・家族等に説明している。状況の変化に応じて話し合いの場を持ち、方針を文書で交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉づかいや対応がないよう努めている。記録等の個人情報の取扱いについては、事務所に保管している。職員不在時は部屋に鍵をかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかなスケジュールは設定しているが、利用者一人ひとりのペースを大切に、希望に添った支援をしている。入浴を拒む人には無理強いせず対応を工夫したり、帰宅願望の人には散歩するなど工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配や近隣のスーパーマーケットへ職員と一緒に買物に行っている。献立は冷蔵庫の食材を使って何を作るか利用者と話しながら作成している。時には出前寿司や弁当にするなど変化を楽しめるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は明るいユニット浴室となっている。安心して入浴できるよう職員2人で介助して入浴する利用者もおられ、また入浴を拒む利用者には時間を空けたり、入りたくなるような声かけを考えたり、職員を交替するなど、いろいろ工夫しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者から食事の作り方を教えていただいたり、庭の草むしりをしながら食用になる植物の話など、家事全般において、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割などの支援を行っている。また歌の好きな利用者にはカラオケを楽しんでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	建物は幹線道路沿いに立地しているが、東側の小道を一筋奥に入ると、そこは静かな山間部となっている。天気の良い日は声かけし、山道の散歩を日課としている。また通院や買い物の帰りに喫茶店やレストランに立ち寄ることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の前が幹線道路となっていて車の交通量も多く門扉を施錠しているが、玄関は午前9時～午後5時の間開放して敷地内の庭を自由に散策できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1階と2階に消火器を、2階ベランダには庭に降りる避難用すべり台を設置している。食堂には消防署に繋がる緊急通報電話を設置しており、避難訓練は年2回実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は把握しており、毎日の献立で摂取カロリーを把握しながら、栄養バランスよく摂取できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入ると2階へ上がる階段が吹き抜けのホールとなっている。廊下奥の南側に居間があり、窓から庭の植栽が見える。日当たりがよく、居心地のよい生活空間となっている。居間にはソファが置いてあり、テレビ、絵画など生活感のある家具が置いてある。居間に続いて食堂、台所があり、食堂の壁には起床から就寝までを時計を絵にして貼ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	二人部屋にはアコーディオンカーテンやタンスを用いて間仕切りするなどプライバシーの確保に努めている。居室には好みのプロ野球球団のポスターや家族の写真、テレビ、ぬいぐるみなど馴染みの物が持ち込まれている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。